



2022年9月



かてい

2022年9月20日発行

▼巻頭言

横浜家庭学園 非常勤講師 小高文雄

そろばん指導について

早いもので、横浜家庭学園でそろばんの授業を始めて今年で42年になります。

自分で経営する基礎学習・そろばん教室のコンセプトである『わかる楽しさ・学ぶ喜び』を家庭学園の児童にも伝えたいとの思いで指導してまいりました。今や、社会の変化が予測を超えて加速度的に進展し、急激に変化する時代の中、そろばんを指導する意義について考えるようになりました。指導要領も何度も改定されましたが、学力の3要素は、児童が新しい社会を生き抜くために育てるべき力として、3つの要素が設定されており、それを総合して『生きる力』と定められています。

教育現場で教えようとしている『生きる力』の最初の要素は、社会の中で生活し働くための「知識・技術」の習得です。それが基盤となり、要素2の「思考・判断力・表現力」、要素3の「学びに向かう力・人間性」などの要素が積み上げられています。私の個人的な意見ですが、そこに「想像力」というのが大切な要素なのではと考えま

す。

行動するとき、これをすればどうという結果になるか、相手がどういう気持ちになるか等の想像力は、児童たちが自らの可能性を最大限に伸ばしながら自立するために大切な力だと思います。

そこで、そろばんとリンクするのですが、そろばんがただ計算する道具としたら、今の時代まで残ることはなかったでしょう。そろばんを学ぶことによって培われる力は、何度も改定されてきた指導要領の中に常に入っているものばかりです。また、そろばんを弾くと、集中力や記憶力を高める為に働く脳の前頭葉という部分が活性化しているのが科学的に証明されています。

「そろばん学習」を通じてIT社会に対応する計算基礎能力の育成と、数感覚を身に付け社会に順応する能力の育成に励んでいます。

数多くの3級・2級・1級の合格者や準2段の有段者も出て、児童がそろばんを頑張ってくれていることが大変うれしく思います。

これからも、児童に寄り添いながら、心をこめて、そろばんを指導して参りたいとおもいます。



新任職員紹介

今年4月より、横浜家庭学園に新しい仲間が増えましたので、紹介させて頂きます。

鈴木 輝実

4月より着任いたしました、鈴木輝実と申します。前職は小学校の職員として勤務しておりました。学生の頃に神様の愛を体験し、信仰をもつようになりました。測り縄は麗しい地に落ち横浜家庭学園へ導かれたことに感謝します。

長い歴史の中で受け継がれてきた伝統に敬意を払い、「小さなことに忠実に」をモットーに職務に臨みたいと存じます。ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます



向山 一樹

5月より法人事務局に配属になりました向山です。前職は三浦しらとり園という障害者入所施設の事務をしておりました。県立の指定管理施設のため、県の福祉関係部署とのつながりが強く、組織的管理を求められる施

設でした。

学生時代はサッカー、社会人になってからはテニス、子供が生まれてからは登山、その他ロードバイク、ランニング等体を動かすことが好きです。サッカーは今観戦だけです。指導者ライセンスを取ってコーチをしていました。

事務所にいることが多く、子どもたちや職員の皆さんと話す機会があまりありませんが、どうぞよろしく願ひします。

佐々木 奏

今年の春保育の専門学校を卒業し、4月より着任いたしました、佐々木奏と申します。学生の頃はずっとバレーボールをやっていた、水泳も少しやっていました。体を動かすことは好きです。

子どもと関わる仕事に就きたいと思っていたので、学園で子どもたちと明るく楽しく関わり、サポートさせていただけ



き、職務に臨みたいと存じます。ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願ひ申し上げます。

新谷 香

事務員として入職いたしました、福岡県出身の新谷香と申します。前職では化学品会社にて事務関連のサポート業務に携わってまいりました。この度かねてより希望していた子どもたちの役に立つ仕事をしたいたい、入職を希望致しました。

学園の子どもたちは、活発な子、大人しい子と様々ですが、みな礼儀正しく頑張り屋さんばかりだなといつも感心させられています。毎日一生懸命な子どもたちの生活が実りのあるものとなるよう、また多忙な現場の先生方のために少しでも働きやすい環境を整えていけるよう、皆さんから学びながらサポートさせていただきます。ご指導ご鞭撻のほど願ひ申し上げます。



家庭学園の水泳

私の中で、この夏一番印象に残っている子どもたちの姿は、水泳大会でのあのパープル水着を着た子どもたちの姿です。ですので、水泳について書かせていただきたいと思いません。

まず、このような思い出を残すことが出来たのも、今年の県水泳大会・関東水泳大会の開催にご尽力いただきました担当施設の先生方や大会実行委員の皆様のおかげです。コロナがまだ終息せず、施設の中でも感染者が出るというような落ち着かない状況にも関わらず、開催を決断してくださったこと、本当に感謝しています。ありがとうございます。

今年の学園の水泳は、例年より少ない時間で大会を迎えることになりました。水泳の日課以外にも、9月に他の行事が控えており、その発表の練習や作品制作、夏季休暇中も外部講師の先生方をお迎えし、授業をやって頂いたり、盛りだくさんな夏休みとなったからです。子どもたちは、新しい試みに対しても文句を言わず、何事にも前向きに取り組んでくれました。

そんな中で、この県水泳大会と関東水泳大

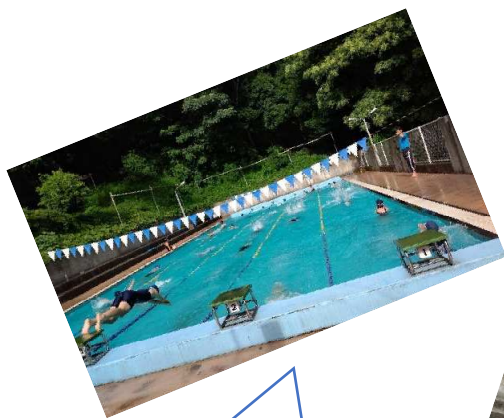
会は子どもたちにとって、大きなモチベーションになっていました。大会という大きな目標に向かって、キャプテンを中心にどんなチームで大会に臨みたいか、どんな自分たちでありたいか、どんなチームが応援されるのかを考え話し合いながら、日々の練習に取り組んでいました。苦しい練習にも目標があったからこそチームのみんなと切磋琢磨することが出来ていました。

水泳の監督から「水泳だけやっていればいいわけではない、水泳ではない時間こそ自分を律するように」と話がありました。これは毎年子どもたちに話していることでしたが、今年は忙しい日課だったので、子どもたちは苦勞しながらも、より意識をして取り組んでいたかなと感じます。

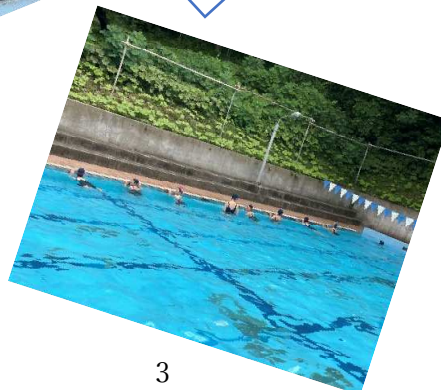
そんな中で迎えた大会当日。当日を迎えるまでに紆余曲折ありましたが、なんとか迎えることが出来ました。久々に見るパープル水着だったからなのか、ここまでのどり着くの様々なことがあったからなのか、子どもたちの姿をみて、「かっこいい!!」という言葉が自然に出てきました。初めての大舞台に、とても緊張している様子でしたが、みんな立派に泳ぎ切ってくれました。

子どもたちにとって「大会」は、刺激的で大変貴重な機会を与えてくれました。夏の集大成となる場を設けてくださり、本当に感謝しています。来年は選手に声援を送り、多くの施設が集まったさらに盛り上がる大会が出来るよう願っています。

最初は水泳の基本的な
バタ足の練習中!



後半はみんな
飛び込みができるまでに
なりました!



夏期キャンプ

8月28日から30日にかけて、2泊3日のキャンプに行きました。場所は、長野県は長者の森キャンプ場です。夏の暑さ厳しい中、ソフトボール大会や水泳大会の練習などを乗り越えたからこそ、楽しいキャンプを過ごすことができました。

現地では、職員が考えたミッションをクリアして回るウォークラリーや、自然を使ったゲーム、自由時間には鬼ごっこや川遊び、コテージの中ではカードゲームで遊んだり、子ども達は羽を広げて過ごすことができました。また、流しそうめんやバーベキューなど、夏ならではのご飯をおなか一杯食べました。

3日目には、山梨県にあるハイジの村に寄り道をし、美味しいアイスクリームを食べたり、アスレチックで遊んだり、フラワーガーデンを満喫したりと、帰るのが名残惜しい程でした。

とはいえ、帰ってくればホッと一息。みんな怪我無く無事に帰ってくることができました。本当に楽しい2泊3日でした。

寄付のご紹介

去る8月にKDDI株式会社 南関東総支社様より、多大なるご寄附をお預かりいたしました。

KDDI様の活動の一つであります「+αプロジェクト」という、社員の皆様が社会貢献活動をするポイントとなり、蓄積されたポイントを、各福祉施設や、団体に寄付や寄贈を行う活動をされております。

この度、横浜市社会福祉協議会様を通して、横浜家庭学園延いては、児童自立支援施設にご理解を頂きまして、ご寄附をお預かりする運びとなりました。

お預かりいたしましたご寄附につきましては、当園の催し物であります感謝祭で使用する「和太鼓」の購入資金として、ありがたく活用させて頂きます。

改めて、この度は、当園へのご理解とご寄附を頂きまして、児童並びに職員一同、感謝申し上げます。誠にありがとうございます。



編集後記

気が付けば今年もあと少し。年を重ねることに時の流れがものすごく早く感じます。

「ジャーネーの法則」と呼ばれる現象があります。子どもの頃は時間の流れが遅く感じ、大人になると時間の流れが速く感じる現象のことです。要因の一つとして考えられるものが、「経験や体験」の差がそうさせるのだそうです。

家庭学園の子ども達も、たくさん経験や体験をして、入所した時よりも一回りも二回りも大きくなって退園してもらいたいと思う気持ちと共に、日々新しい経験や体験を得られるということが、羨ましくも思います。寒さが増してくる季節となりますが、どうか皆様もご自愛くださいませ。

(編集：松浦・貴田・阿部・岸川)

水谷・佐々木・馬場)

発行：社会福祉法人 幼年保護会

横浜家庭学園

住所：神奈川県横浜市保土ケ谷区

釜台町 18-1

電話：045-331-5884

E-mail：yokohamakatei@kh.biglobe.ne.jp

HP：https://www.yokohamakateigakuen.org/